

いちめんのなのはな

令和2年7月10日(金)
こうちよう ずず き まこと
校長 鈴木 誠



「かさ、ありがとうございました」

- 7月6日(月) -

週が明けて、登校してくる子供たちの中に、傘を2本持った1年生の男の子がいました。北門の横断歩道で子供たちを迎えている私にその子が近寄り「かさ、ありがとうございました」と1本の傘を手渡しました。先週末の下校時に壊れてしまった傘の代わりに貸した傘でした。世話になったことを忘れず、きちんとお礼ができてすてきです。

休日の練習を始めました

- 部活動7月4日(土) -

7月に入り、部活動の練習を休日にも行うようにしました。はじめは長い時間の活動や部員だけでの登下校になれることも練習の目的です。今後は他校との練習試合なども計画する予定です。御理解と御支援をお願いします。

初めての休日練習、「長い時間で大変だったね」との声かけに「楽しかった」と返す子供の姿がまぶしく感じられました。



響きに豊かさが増す・合唱部



ボールの飛び出しを気にせずはつらつと・バレーボール部



きまりを守って仲良く遊ぶ

- 3,4,5組・日常生活 7月6日(月) -

3, 4, 5組の子供たちが、ボウリングをして学習しました。たくさん倒して大喜び、それを素直にたたえる姿がありました。1本も倒せないときもありましたが、気持ちをコントロールすることを学びました。

倒した後に並べ直すことを忘れずにできることが多く、忘れる子があれば教えてあげることもできました。点数の計算もできていました。たくさんの学びがありました。

突然の雨に廊下が濡れました

- ボランティアする子供たち 7月6日(月) -

この日、2時間目の終わりごろから、強い風をともなって雨が降りました。換気を心がける昨今ですから、窓の向きによっては、廊下が濡れてしまいました。すぐに長放課になり、5年生の男子が校内の窓を閉めて回り始めました。そして、階段の踊り場では6年生の女子、渡り廊下では5年生の女子が、せっせと雑巾でぬれた床を拭いてくれました。尋ねると、自分たちでした方がよいと考えて、実行したとのこと。とてもさわやかな姿でした。





感染予防と熱中症予防を呼びかけよう

- 保健委員会 7月6日(月) -

委員会活動は自治の資質を育む大切な活動です。この日の委員会活動では、学校の課題と解決法を考えよう、環境と福祉を考えてアルミ缶のプルトップ（飲み口を開ける際に引き上げたり押し込んだりする部分）集めよう、昼放課に全校で楽しめる活動を考えよう、読書週間にどんな取り組みをしたらみんなが本を読むかな、お昼の放送の内容や当番と役割を決めよう、など、様々な話し合いが行われていました。

その一つの保健委員会では、「新型コロナウイルス感染予防と熱中症予防」を呼びかけるための話し合いが行われていました。様々な課題を自分事と受け止めて取り組むことができている。こうした委員会活動や学級での学びが、自分で考え判断して行動する態度や実行力に高まることを願っています。

「ほけん」の学習

- 3年生・体育科 7月8日(水) -

体育科の学習では、3年生からは実際に運動することに加えて「保健」についても学習します。これは、生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育む学習です。本校の3年生も学び始めています。

体を動かしたくてうずうずしている子も多い3年生ですが、雨が強く降ったこの日、「けんこうな生活」について教科書を用いて学びました。



座って学ぶことも「たいいく」



間隔をとって並ぶ子供たち

はじめての図書借り出し

- 1年生 7月8日(水) -

1年生の子供たちが、図書室での本の借り方を学習し、実際に読みたい本を借りました。

「初めて」に加えて「6年間ずっとこの方法で」という先生の話が最初にあったからでしょうか、子供たちは最後まで集中して説明に耳を傾けました。説明の後で子供たちは、思い思いに「初めて借りる本」を選びました。

選んだ本を大切に抱えた子供たちは、貸出カウンターに自分のカードと本に貼られたカードのバーコードを読み取ってもらい、「はい、貸し出しできました」と言われると、パッと笑顔になりました。席に着くと楽しげにページをめくる子供たち。いっぱい本を借りて、どんどん本好きになってほしいと願っています。

「新しい学校生活様式」の定着をめざして

7月に入り、連日のように国内の新型コロナウイルス感染者が200人を超えたと報道されています。一方、愛知県や岡崎市の状況から、大きな危機が迫っているようには感じていない人も少なくないのかもしれませんが。校内においては、熱中症予防をマスク着用を優先させていることもあり、再開当初の緊張感が薄れているように感じる場面もあります。給食の配膳時ににぎやかな話し声があるときもあります。子供たちの良さを大切にしながら、「新しい学校生活様式」の定着をめざす緊張感を今一度高めなければならないと思っています。



教室の中では前を向き静かに待つ